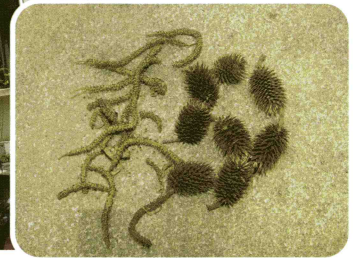


# 農工大の樹 その50



## 〈 解 説 〉

### ノグルミ

ノグルミ (クルミ科ノグルミ属の種; 学名 *Platycarya strobilacea* Seib.et Zucc.)

この種は樹高10mから20m、直径60cmくらいになる落葉高木で、東海地方以西の本州、九州、四国、朝鮮半島、台湾、中国中・南部に分布しています。和名のノグルミは「野グルミ」の意味で、羽状複葉の葉や樹形がクルミに似ていて、山野に生えていることに由来します。6月に新枝の先に多数の尾状の雄花と、1~2個の雌花をつけます。雌花は成熟すると、革質の堅い鱗片をもつハリネズミのような長楕円形の果序をつくります。この形から、この木を中国地方ではサルノクシ、キツネノクシ、壱岐島ではオニババノクシ、和歌山県ではカラスノクシなどと呼ぶそうです。また、燃やすと芳香を発するので、中国地方や九州では福の神を招くために、大晦日や節分に囲炉裏でこの材を焚く風習があるそうです。用途としては、クルミと同じ建築材、器具材のほかに、樹皮からタンニンの原料を採り、皮をなめすのに利用しました。この写真は農学部本館の南側に生育するこの種で、拡大写真は枝につく昨年と今年の雌花、雄花と雌花です。

(環境資源共生科学部門 教授 福嶋 司)